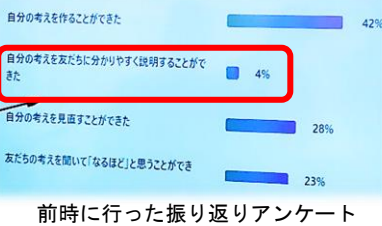


11月27日「福岡県情報活用能力向上事業における公開授業兼第5回ICT教育推進委員会」があり、味坂小学校の伊藤成海先生に国語科の授業を公開していただきました。単元のめあてを『味坂小のみんなが、食べ物を大好きになるように、食べ物のひみつを調べ、味チューバーになって知らせよう』とし、本時では、「はじめ」、「中」、「終わり」の「中」の文章を書くために、自分で調べて作った組み立てメモを伝わりやすいように並べ替え、文章の構成を練り上げる授業でした。

3年1組(国語科)「食べ物のひみつを教えます」授業者 伊藤 成海 先生

主眼 説明する文章の「はじめ」「中」「終わり」に書く内容を考え、事例の順序に気を付けて、組み立てメモの並べ方を工夫し、放送原稿を書く見通しをもつことができる。



前時に行った振り返りアンケート

【情報の収集】 (しらべる)

前時に行ったまとめのアンケート結果を提示することで、自分で調べた食べ物の秘密を分かりやすく

説明するために必要なことを確認し、本時のめあてにつなげることで、見通しを持って活動に取り組むことができました。

【整理・分析①】 (くらべてまとめる)

どの順番で説明したら分かりやすいか根拠をもとに考え、組み立てメモを並べ替えながら構成を工夫しました。



組み立てメモを並べ替えている場面

《児童が考えた根拠》

「見た目が分かりやすいものから並べよう。」
「日本から近い国の食べ物から並べよう。」



自分の考えを友達に説明している場面

【整理・分析②】 (くらべてまとめる)

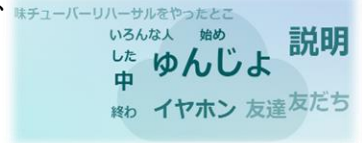
自分が考えた組み立てメモの順番を友達と交流して、考えを練り上げました。

《交流で出た意見》

「たまごが使われていることが分かりやすい順番なら、マヨネーズよりプリンが先の方がいいよ。」

【まとめ・表現】(つたえる)

組み立てメモだけを見ながら、分かりやすく説明できるか試しに録音して聞く活動を行い、説明するためには、文章にまとめることが必要であるという課題意識を高めました。また、振り返りのテキストマイニングでは、順序に気を付けて文章を構成することが大切であることを確かめました。



振り返りのテキストマイニング

情報活用能力向上事業にかかる研究報告【味坂小学校 主幹教諭 松島昭典 先生より】

本校では、昨年度までの課題を踏まえ、今年度はICTの利活用を教師主体から学習者主体へと転換していくための授業改善を目指しています。そのために、以下の3点に取り組んでいます。1つは「情報活用の学習過程の工夫」、2つは、「探究的に学ぶための課題設定の工夫」、3つは「学習過程を支える手立ての工夫」です。具体的には、パフォーマンス課題を身近な生活や、先生・地域の人々からの願いごと（ミッション）という形で設定します。そのミッションをクリアするために、児童は自ら「情報の収集（しらべる）」「整理・分析（くらべてまとめる）」「まとめ・表現（つたえる）」という学習過程を踏んでいきます。その中で、情報活用能力を習得したり発揮したりすることによって、見方・考え方や学習内容を学び取っていきける授業のあり方を探っています。試行錯誤しながらの研究ですが、本校の取組が小郡市全体の情報活用能力向上に少しでも役に立てるようご指導、ご助言をお願いします。

【協議会でのICT教育推進委員からの意見】

- 情報活用能力は、言語能力と同様の学習の基盤となる資質能力と言われるが、今日の授業では、子ども達が情報と情報の関係を考えたり、情報を整理・分析したりする姿を見ることができた。
- 今日の活動ではメモを並べ替えることが主眼なので、並べ替えた順序性にかかる理由を発表（説明）し合うことが大切になると思う。そのために、「分かりやすい順」や「簡単に作れる順」など、並べ替えるための視点例を提示することも主眼を焦点化する手立てになると感じた。

情報活用能力向上推進協議会委員 大阪電気通信大学 石塚 丈晴 教授より

3年生の児童が、手元を見ずに、黒板を見ながら、タイピングをしている姿を見て、大変驚いた。日常的に様々な場面でタブレットを活用していることがこの姿から分かる。

ICTを利用することには、次のような利点がある。

- 学習のログが残り、それを使って次の活動につなげることができる。
 - 学習につまずいている児童生徒の原因を探りやすくなる。
 - 協働的な学びを行う際に、より深い協議(対話)を行うことができる。
- ※校長のリーダーシップと全職員がICTを利活用することで、学力向上の成果も期待できるため、どの学校でも積極的にICTを取り入れた授業改善に取り組んでほしい。

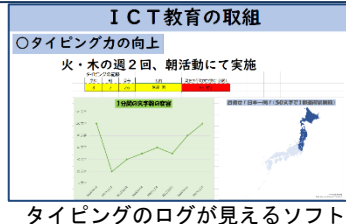


各中学校の
プレゼン資料

各中学校の ICT 教育推進に関する取組報告

宝城中

タイピングスキルを向上させるためのソフトを開発し、週2回朝活動で実施している。また、ミニ研修(ICT語らん会)を実施したり、授業実践を紹介し合ったりする事で着実に利活用が広がってきた。



タイピングのログが見えるソフト

立石中

ICTを効果的に活用した学習場面を全職員で共有することで、先生たちが活用の目的を明確にしてICTを取り入れるようになった。また、アウトプットを意識することで、生徒が主体的に取り組む姿が見えるようになった。



映像を見て作戦を練る生徒の様子

小郡中

スタディ・ログや自主学習教材の活用方法を、全校一斉にレクチャーするなど、生徒が主体的に取り組める仕組みをつくり、スタディ・ログを作成している場面持続可能で効果が高いICTの利活用を全職員で目指して授業改善に取り組んでいる。



スタディ・ログを作成している場面

三国中

Teamsを使って翌日の時間割や板書の写真、体育大会のダンス動画等を共有する事で、欠席者が安心して登校できる環境づくりに効果があった。Teamsに共有された翌日の時間割また、夏休みのICT講座や活用場面の共有を行うことで、授業におけるICTの利活用が広がった。



Teamsに共有された翌日の時間割

ICT教育推進委員の先生方からの感想(要旨)

- 使い方を教えさえすればここまでできるのかということを見せていただいたので、自分も挑戦してみたい。そのとき、活用の目的や視点を自分自身が明確にするだけでなく、しっかりと子どもたちと共有することが重要だと学びました。
- 公開授業を見させていただいて、タブレットが「道具」として活用されていることが印象的でした。
- タブレットを有効に活用していくためにはタイピング能力の向上が不可欠だと感じました。タイピング検定や自分で振り返れる方法を考え実践していきたいと思えます。
- スタディ・ログを全校で行っていきたく感じました。本校は、職員数が多く、全体で始めることが困難な場合もありますが、できるところから始めていきたいです。
- 今回の交流を通して、情報活用能力育成のための年間指導計画について、本校ではその視点であまり共通理解が図れていないと感じたので、来年度に向けてどのような形で取り入れていくか検討したいと思いました。

学力向上にかかる実践報告【小郡中学校】

12月4日に行われた園長・校長連絡会で、小郡中学校による実践報告がありました。前半に、船津校長先生から「【力のある学校】Well-beingな学校」を実現するための確固たる理念と、それを全職員に浸透させるための「人間関係づくり」「可視化による目標共有」「チーム学習会議」「隙間時間の有効活用」に重点を置いた学校経営を紹介してもらいました。後半は、研究主任の池田教諭から、**生徒が主体的に活動する仕組みやアウトプットを意識した授業改善**など、誰でもすぐに取り組むことができる持続可能な実践例を演習形式で紹介していただきました。参加した先生からは、「学習用語を友達と説明し合うアウトプットの活動や、自主学習教材の共有など、すぐに取り入れたいことをたくさん学べたので、自校に戻って、全職員に共有したい。」や、「とてもワクワクした。Well-beingな職員室を意識するアンケートをすぐにやりたい。」などの意見が挙がりました。



池田教諭による演習形式の実践報告